



総括 山桜会創立90周年記念事業

校友会 山桜会 会長 川原 俊明

はじめに

会員みなさま、今年は大変お世話になりました。

山桜会の多彩な創立90周年記念事業の展開で、山桜会史上、始めて以来の超多忙な年となりました。

この1年を振り返ってみると、記念新年会[1月28日(土)]から始まり、福井日銀総裁記念講演会[3月18日(土)]、記念総会・懇親会[6月25日(日)]、記念チャリティゴルフコンペ[9月17日(日)]、記念パーティ[10月29日(日)]、さらには記念コンサート[11月8日(水)]に至るまで、例年の山桜会行事の2・3倍もの事業を敢行したことになります。

記念パーティの第一部を飾るシンポジウム「オール追手門に向けて」。

少子化現象の中で始まる私学のサバイバルゲームに追手門学院が勝ち抜くためにはどうすればいいのか。卒業生としてなし得ることは何か。「オール追手門」が改革のキーワードになりうるか。理事長をはじめ学院の各代表が一堂に会する学院始まって以来のシンポジウムでした。

第2部も、90周年を祝うにふさわしい三番叟。歌で綴る山桜会。300人を超える参加者の思い出に残るすばらしいパーティとなりました。

湯浅卓雄氏の記念コンサートに至っては、実に1500名を超える聴衆がシンフォニーホールを埋め尽くしました。ご来賓、学生生徒、保護者、学院関係団体、大学校友会、山桜会会員、ご家族など、全学からの結集でした。

パイプオルガンが奏でる追手門学院校歌。湯浅卓雄氏の全身からわき出る力のこもった指揮ぶりに感動の渦。まさにオール追手門の象徴的行事となりました。学院としても、2008年に向けて、今年は、創立120周年記念事業が多々行われました。しかし、数多い学院記念事業の中でも、際だって山桜会色の強かった年でした。

この成功は、山桜会の理事・評議員みなさんのご尽力のたまものです。

そして、多くの会員みなさまのご支援とご協力のおかげです。度重なる参加要請に、みなさまには大変ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

それだけではありません。山桜会記念事業の多くが、学院創立120周年記念事業としての位置づけを得ていることから、多くの学院関係者、各校PTA、教育後援会をはじめとする各団体の絶大なご協力をいただきました。紙面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

山桜会が得たものは

創立90周年記念事業で山桜会が得たものは何か。

山桜会は、同窓会組織として、卒業生相互の親睦団体にとどまらず、活動目標に掲げる「母校に対する教育改革支援」を実践できたことでしょう。

山桜会は、「オール追手門の中核組織」でありたい。

記念シンポジウムでも、かねてから私達が主張していた山桜会の存在意義を十分に主張させていただきました。

おかげで、山桜会活動に対するプラス評価もいただき、将来の活動に対する期待も抱いていただけるようになりました。

私達は、追手門学院の卒業生として、母校に対する貢献をさらに高め、学院の発展に全力を傾注したいと思います。

山桜会が進むべき道は

数多くの記念事業を推進したことによって、私達が反省すべき点の一つは、山桜会実行部隊に疲労感が蓄積していることでした。

1年間で実行する企画として、「やり過ぎだ」との声を乗り越えて、すべてやり遂げてしまった達成感がある反面、山桜会を支えてきた各事業の実行委員会みなさんの「金属疲労」が心配です。

山桜会活動は、すべてがボランティアです。参加していただく会員みなさんすべてに、「時間」と「労力」と「手弁当」を惜しげもなく提供していただいています。それだけに、活動の核となる実行部隊のメンバーがどうしても固定化する傾向にあります。事業の企画段階から、もっと多くの一般会員が気楽に参加できる体制を整え、それを前提とした山桜会活動に裾野を広げる必要性と感じています。

山桜会は、すべての卒業生のためにあります。

山桜会の事業は、すべて、会員参加によって成り立っています。

より多くの会員の皆様のご理解とご参加を得て、より大きな、そして社会的に有意義な事業を推進したいと考えています。

山桜会執行部ならびに各委員会は、90周年記念事業の推進を通じ、より強力な結束を得ることができました。

しかし、山桜会が、今後も、より大きな展開をするためには、多くの若い後輩達の力を結集するとともに、もっと気軽に、もっと楽しく、もっと社会的意義のある充実した活動内容を行うことによって、幅広い「裾野の拡大」を目指す必要があります。

山桜会は、卒業年度を問わず、ひたすら愛校心旺盛な会員みなさまに対し、母校改革支援活動への積極参加を呼びかけます。

山桜会活動を通じて、私達が得る最大のものは、90年の歴史に裏付けられた人材の宝庫との出会いがあります。

次の100周年に向けて

私達は、この一年に展開した山桜会創立90周年記念事業は、あくまで山桜会ならびに母校の発展、という大きな目標に向かっての一里塚にすぎない、という認識をしています。

記念事業を通じ、私達は、多くの収穫を得ました。

組織として、評議員に対する学年代表意識の高揚の必要性、一般会員に活動の輪を広げる方策の検討、組織として横断的機能的活動への強化策などが課題として顕在化してきました。

山桜会創立90周年記念事業をこれだけ華やかに実施できたのは、なによりも学院との連携、学院からのバックアップがあったからこそです。

私達は、さらに学院との連携を深め、母校に対する強力な支援団体であらうと思います。